

テーマ：『 理科への興味・関心を高めるための指導方法や指導体制の工夫・改善 』

北九州市立 千代中学校

Tel. 093-613-0617 担当者： 松山 英夫



～化石発掘体験～栃木県塩原の泥岩を割って探す

～火山灰の観察～博物館の高性能な器具を使用して

■実践内容：

本校の理科は昨年度までは習熟度別少人数授業を実施してきた。また、観察・実験の個別化、夏休みの自由研究の全学年提出、地域の施設や人材を活用した「理科大好き教室」を実施してきた。以下、9月に実施した1年生の「理科大好き教室」について報告する。市内にある「北九州市立いのちのたび博物館」と隣接する「北九州市立環境ミュージアム」の施設と人材を活用して、中学 1 年で学習する「大地の変化」の単元や総合的な学習の時間で取り組む環境学習への導入的な課外学習を実施した。内容は、下の表にあるような5講座で、「北九州の地層」の講話は全員で聞き、残りの4講座は4クラスでローテーションして実施した。特に、「化石発掘体験」や「火山灰の観察」は博物館の学芸員やミュージアムティーチャーとTTで行い、博物館の人とものを最大限活用した内容とした。

校時	1	2	3	4	5	活動場所
講話(北九州の地層)		全				ガイド館
競ミュージアム見学				1,2組	3,4組	競ミュージアム
化石発掘体験	1組		3組	4組	2組	講座室
火山灰観察	2組		4組	3組	1組	実習室
自然史ソシ見学	3,4組		1,2組			館内

2校時の講話(40分)以外は60分単位の講座で、休み時間は移動を含めて15分とした。学校からの移動は大型バス3台を使用し、終日かけた取組である。

■実践成果：

生徒の事後のアンケート結果から、「今回のような施設を利用した学習は、理科を好きになるのに効果があるか？」の質問に「ある」48%、「どちらかと言えばある」36%で、計 84%の生徒が、なんらかの効果があると答えており、更に、今後学習する単元「大地の変化」に興味をもった生徒が「どちらかと言えば」を含めると83%になることが分かった。また、何よりも「楽しかった」57%、「まあまあ楽しかった」38%で、計95%の生徒が楽しい体験として捉え、「またやってみよう」生徒も 91%いることから、理科離れが社会的に問題になっている昨今、地域の博物館や科学館等の施設や人材を活用した取組は、生徒の理科への興味・関心を高める指導方法、指導体制としては大きな成果があることが明らかになった。

■実践ポイント：

日常の授業で観察・実験の少人数での実施、毎回のレポート提出、自由研究の取組などを実施し、日頃から理科への興味・関心を高める努力をしながら、トピックス的に地域の施設や人材を活用した課外授業を実施している。実施にあたっては、施設等と綿密な打合せや実験準備を行いカリキュラムに沿った内容にすること、施設等の人材や器具、展示物などの活用を図ること、生徒には事前・事後学習を充実させること等が実践のポイントとなる。